

# 令和5年度 学校評価の概要

令和6年3月  
北海道立農業大学校

# 自己評価結果の概要

## 自己評価の実施方法

1 重点目標の達成に向けて、令和5年度に重点的に取り組んだ取組実績を点検した。

### 【重点目標】

- 職員の指導力・教育力の向上
- 魅力ある教育・研修づくりと情報発信の強化
- 魅力ある教育環境づくり

## 2 実施方法

上記の取組実績について、研修教育活動に携わっている職員を対象に、自己評価アンケート調査を実施し、評価項目ごとに目標を達成しているか、4段階（A～D）で自己評価を行い、併せて、意見や課題について取りまとめを行った。

なお、上記アンケートにおいては、「自分の業務に直接関連していないので判断できない」（E区分）を設けたが、評価結果の集計から除外した。

### 【評価区分】

- A：十分達成できている
- B：おおむね達成できている
- C：どちらかという達成できていない
- D：ほとんど達成できていない
- E：自分の業務に直接関連していないので判断できない

### 【回答状況】

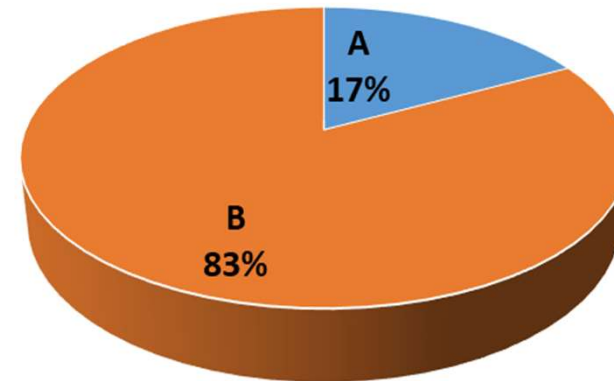
調査対象職員：29名 回答者数：28名（回答率：97%）

## 自己評価（職員評価）の結果（職員の指導力・教育力の向上①）

### 【授業方法の改善】

全てが肯定的評価であり、「おおむね達成できている」が大部分（83%）を占めている。

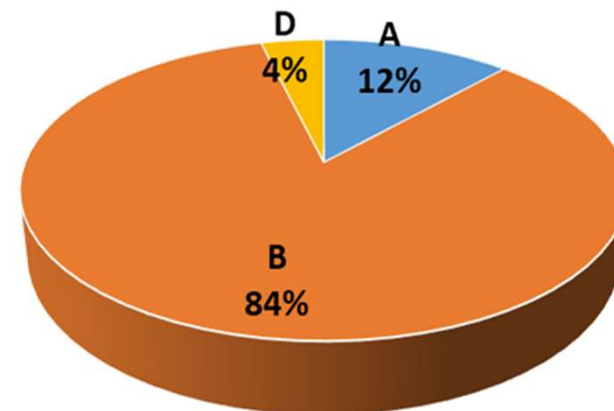
授業方法の改善



### 【基礎学力不足の学生対応・生活指導】

肯定的評価（A、B）は24人で96%と大部分を占めているが、否定的評価（D）もあり、基礎学力不足の学生への更なる対策が必要との評価もある。

基礎学力不足の学生対応・生活指導

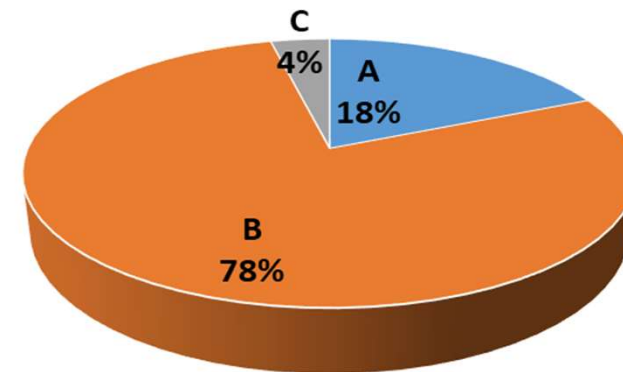


## 自己評価（職員評価）の結果（職員の指導力・教育力の向上②）

### 【職員の自己評価取組の改善】

肯定的評価（A、B）は26人で96%と肯定的評価が大部分を占めている。

職員の自己評価取組の改善

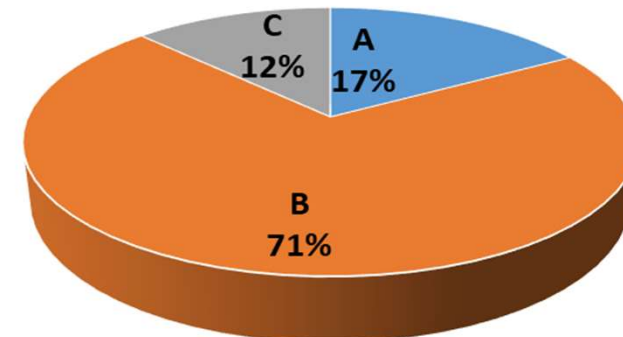


## 自己評価（職員評価）の結果（魅力ある教育・研修づくりと情報発信の強化①）

### 【教育・研修内容の充実】

肯定的評価（A、B）は21人で88%、否定的評価（C）は3人で12%であり、肯定的評価が大部分を占めているものの、どちらかというとな達成できていない（C）評価もあり、今後改善していく余地がある。

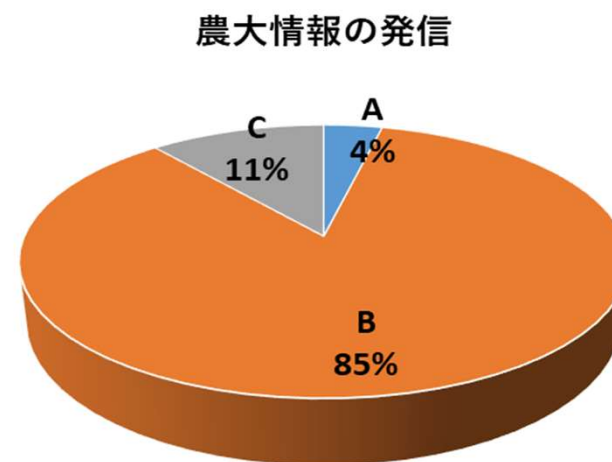
教育・研修内容の充実



## 自己評価（職員評価）の結果（魅力ある教育・研修づくりと情報発信の強化②）

### 【農大情報の発信】

肯定的評価（A、B）は24人で89%、否定的評価（C）は3人で11%であり、肯定的評価が大部分を占めているものの、どちらかというとな達成できていない（C）評価もあり、今後改善していく余地がある。

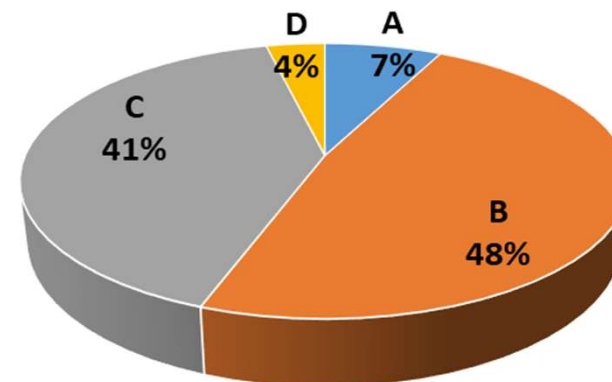


## 自己評価（職員評価）の結果（魅力ある教育環境づくり）

### 【教育・実習施設等の計画的な整備の推進】

肯定的評価（A、B）は15人で55%、否定的評価（C、D）12人で45%とほぼ同率となっている。ほとんど達成できていない（D）評価も一定数あり、今後改善していく余地がある。

教育・実習施設等の計画的な整備の推進



# 自己評価（学生アンケート）の結果①

本校学生を対象に学校評価を行い、学生がより良い教育を享受できるよう、その教育活動等の成果を検証し、学校運営の改善と発展を目指すため、学校評価アンケートを実施した。

## 1 実施時期

令和6年1月10日（水）

## 2 対象学生（85名）

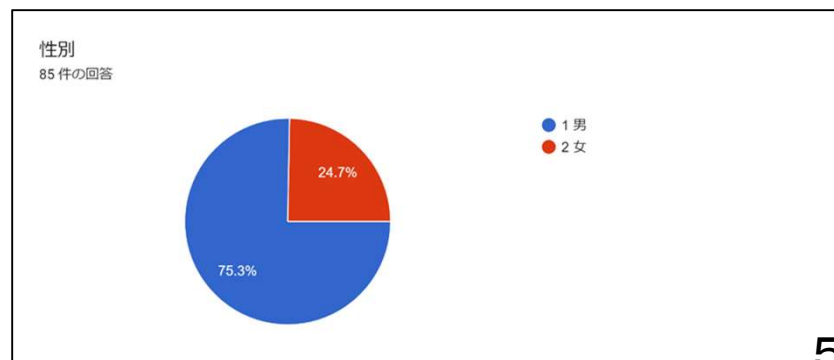
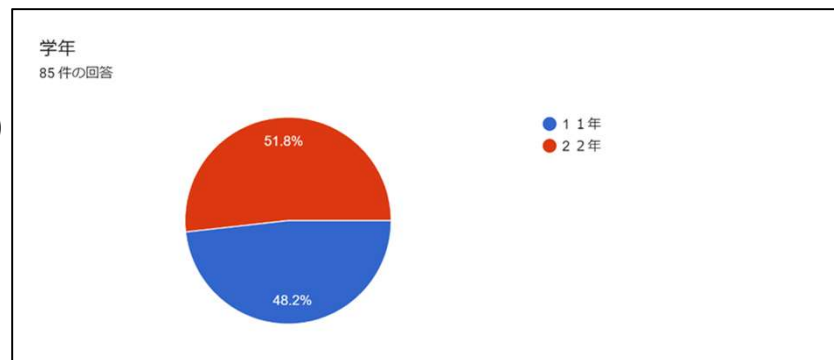
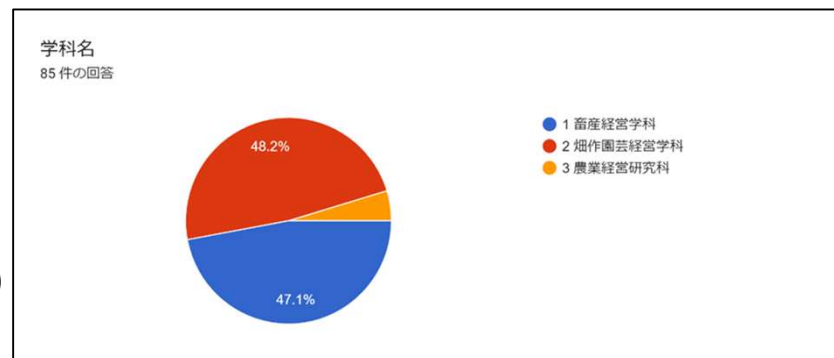
養成課程 畜産経営学科1年（19名）・2年（21名）  
畑作園芸経営学科1年（22名）・2年（19名）  
研究課程 農業経営研究科2年（4名）

## 3 回答数（85名）

養成課程 畜産経営学科1年（19名）・2年（21名）  
畑作園芸経営学科1年（22名）・2年（19名）  
研究課程 農業経営研究科2年（4名）  
回答率 100%

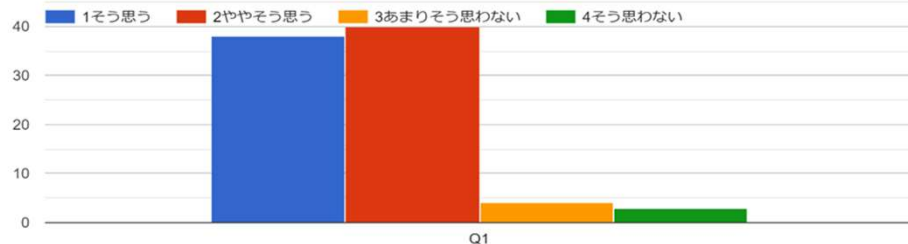
## 4 実施方法

各課程とも1限目に実施

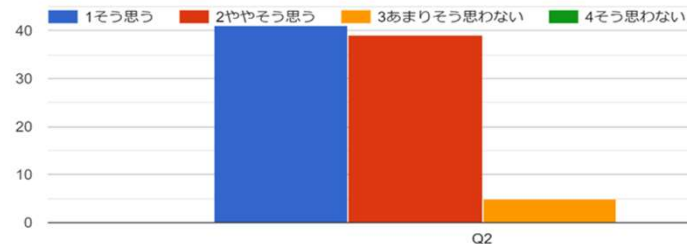


# 自己評価（学生アンケート）の結果②

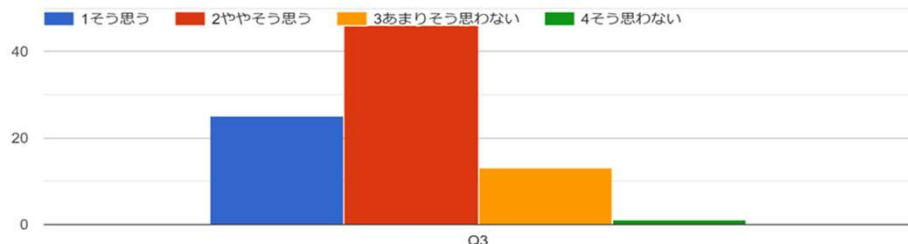
Q1. 本校の教育内容は農業の担い手養成に適しているか



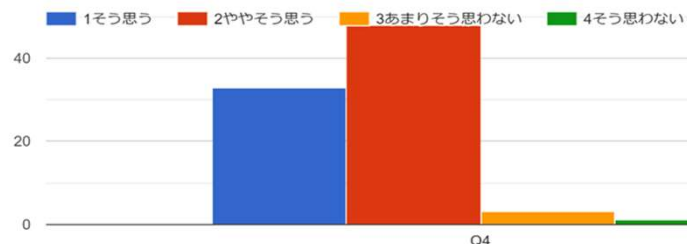
Q2. 先生方の授業（講義）の取組みは熱心である



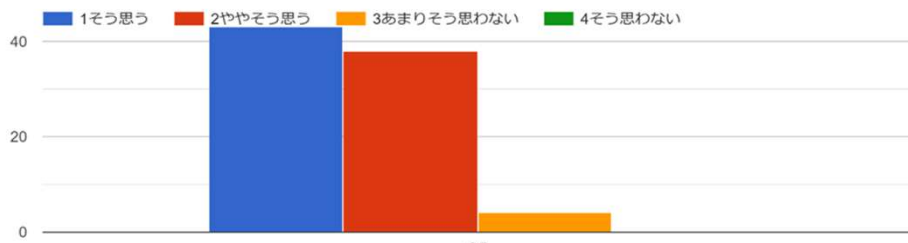
Q3. 先生方の授業（講義）の教え方はわかりやすい



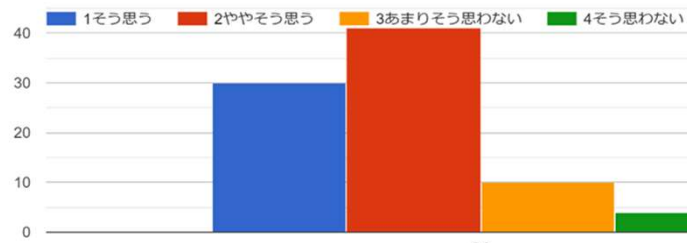
Q4. 講義は将来の農業経営あるいは進路に役立つ内容である



Q5. 演習・実習は将来の農業経営あるいは進路に役立つ内容である



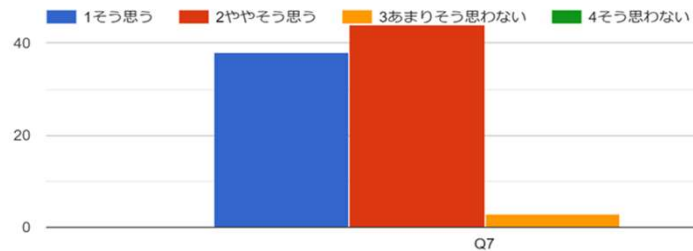
Q6. 施設設備が充実しており、特に農場実習は大変勉強になっている



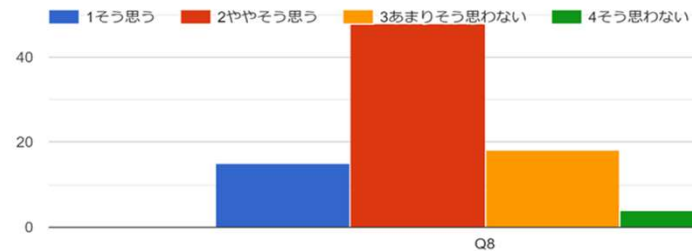


# 自己評価（学生アンケート）の結果③

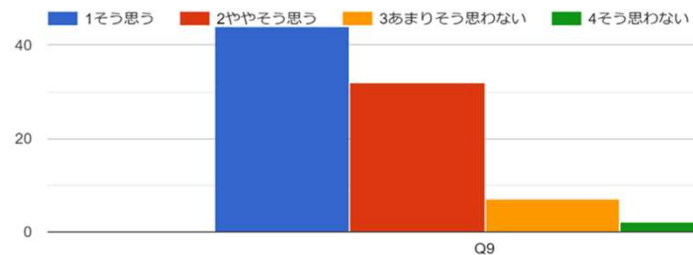
Q7. 授業内容・進度はシラバスに沿っている ※...記載されている各科目ごとの授業内容等のことです



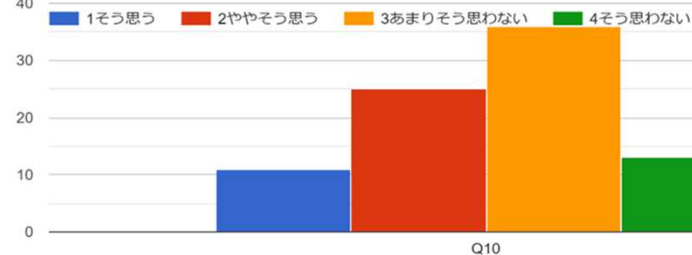
Q8. 学生は意欲的に勉強している



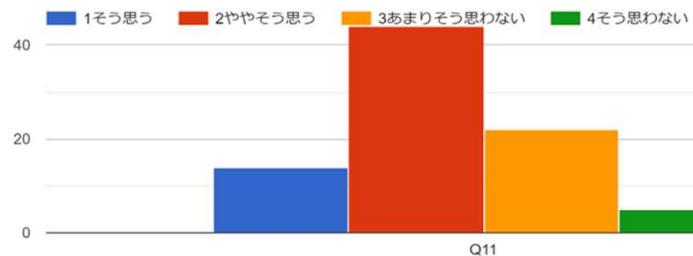
Q9. 学校行事（農大祭、農大市、体育大会等）は活発に行われている



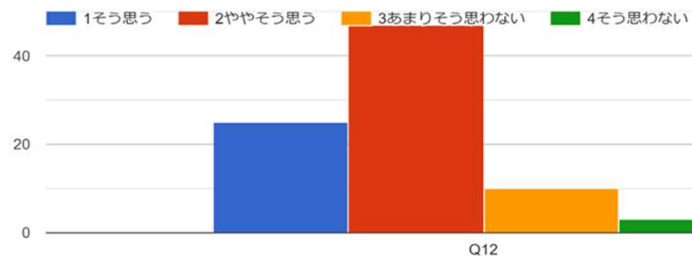
Q10. クラブ、同好会等、学生会活動は活発に行われている



Q11. 学生会活動を通じて、自主・自律の精神が養われている

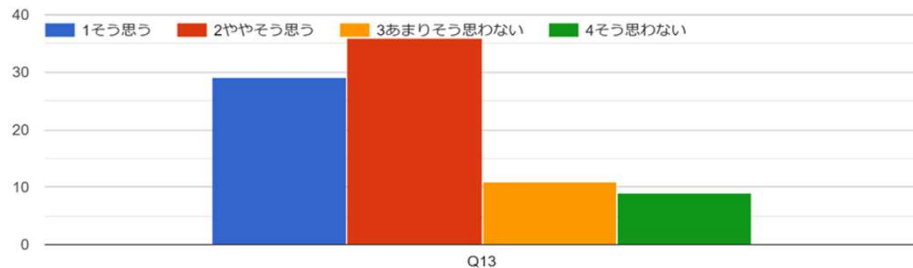


Q12. 先生方は学生を理解し、相談に乗ってくれる

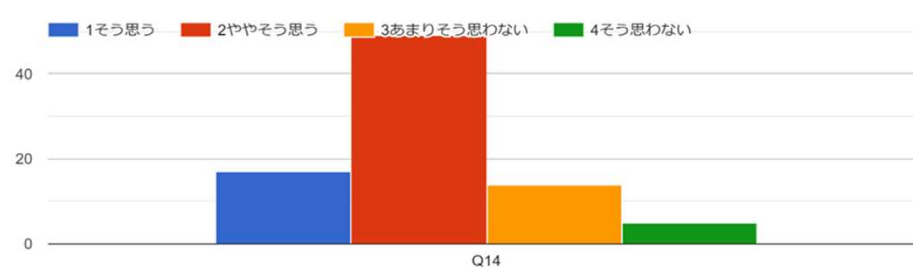


# 自己評価（学生アンケート）の結果④

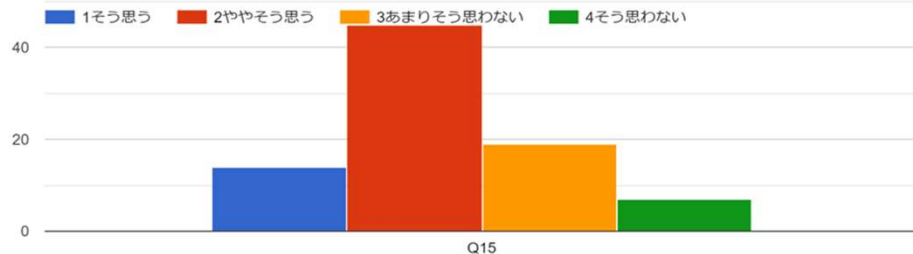
Q13. 先生方は日頃から交通事故・違反、禁酒・禁煙等、社会規範意識を高める指導をしている



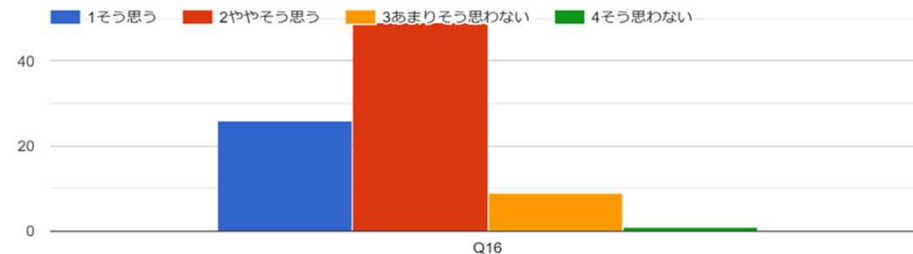
Q14. 学生は目標を持って学校生活を送っている



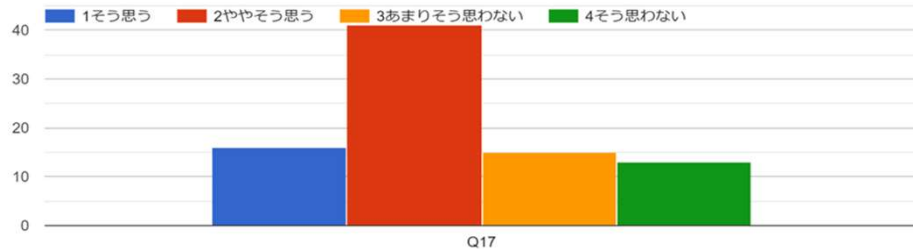
Q15. 学生はあいさつなど、マナーがよい



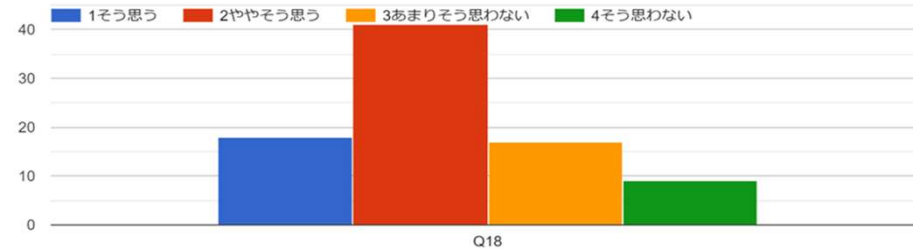
Q16. 本校は、交通安全・防災訓練等、健康・安全に関わる指導に積極的に取り組んでいる



Q17. 寮生活は快適である

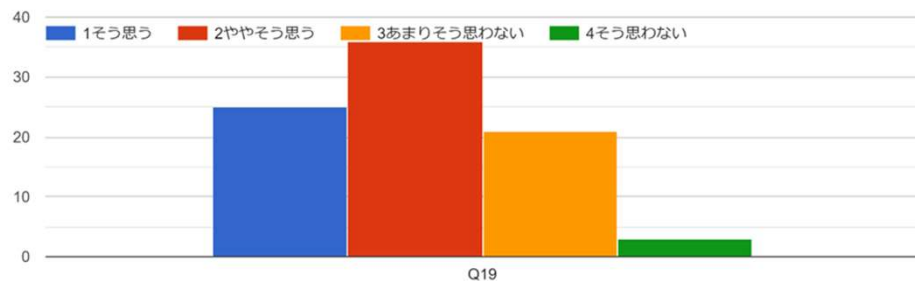


Q18. 学生は寮生活のルールを守っている

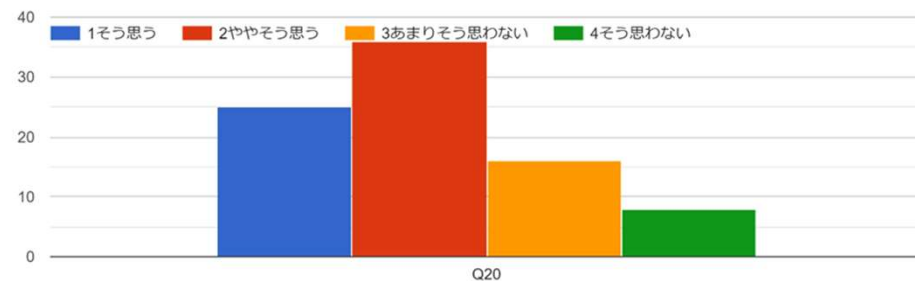


# 自己評価（学生アンケート）の結果⑤

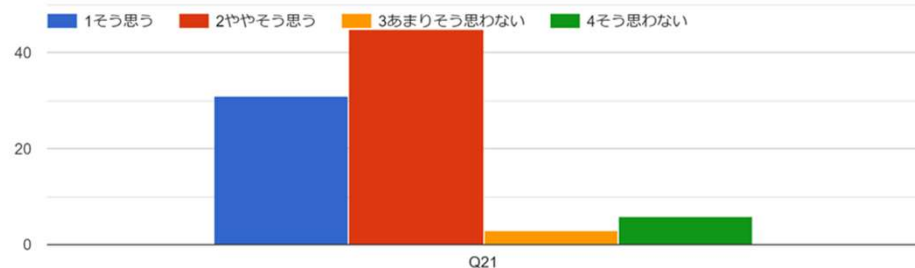
Q19. 寮の食事は満足している



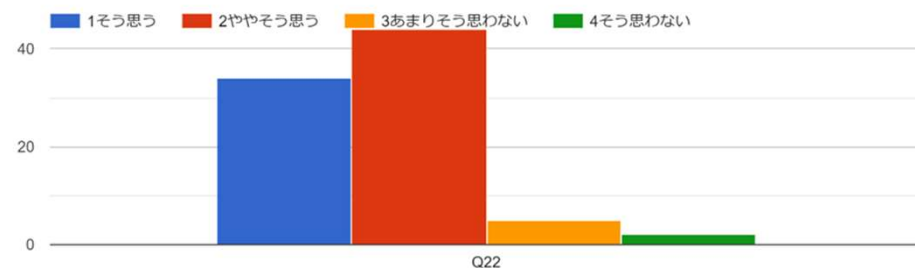
Q20. 図書館は閲覧しやすく、利用しやすい



Q21. 本校に入校してよかったと思っている



Q22. 本校に入校して、人間的に成長したと思っている



# 外部評価結果の概要

## 外部評価の実施方法

### 1 外部評価委員会の開催

- (1) 期 日 令和6年3月4日(月)
- (2) 場 所 北海道立農業大学校 会議室
- (3) 出席委員 4名

### 2 実施方法

令和5年度に設定した重点目標に対する取組実績について、上記外部評価委員会を経て、評価項目ごとに目標を達成しているか、評価を受けた。

#### 【評価区分】

- A : 十分達成できている
- B : おおむね達成できている
- C : どちらかという達成できていない
- D : ほとんど達成できていない

#### 【評価状況】

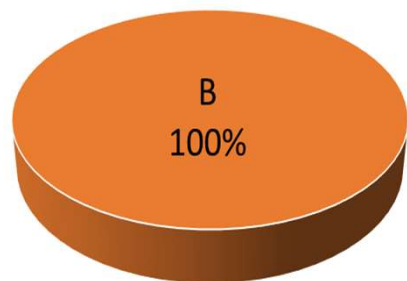
外部評価委員 : 5名 評価数 : 5名 (評価率 : 100%)

## 外部評価委員による評価の結果①

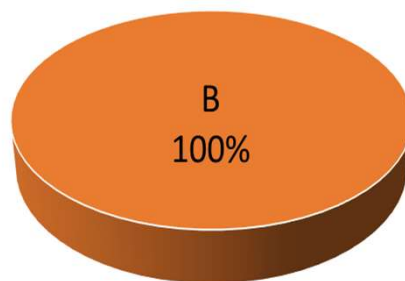
### 【評価結果の概要】

概ね肯定的評価（A、B）であるが、評価項目のうち、「授業方法の改善」、「基礎学力不足の学生対応・生活指導」、「職員の自己評価取組の改善」は、全てがB評価である。また、「教育・研修内容の充実」、「農大情報の発信」、「教育・実習施設等の計画的な整備の推進」は、概ね肯定的評価であるものの、「農大情報の発信」はC評価もあり、改善の余地があるものと考えられる。

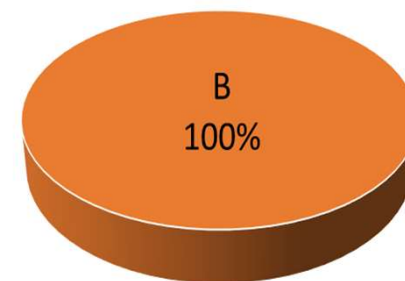
授業方法の改善



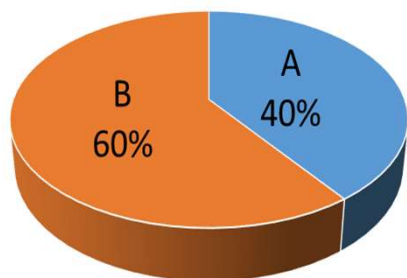
基礎学力不足の学生対応・生活指導



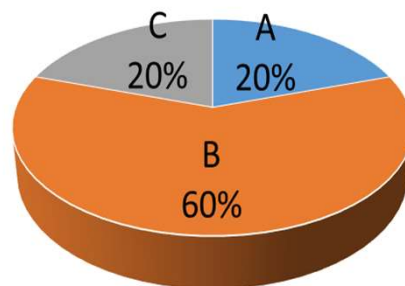
職員の自己評価取組の改善



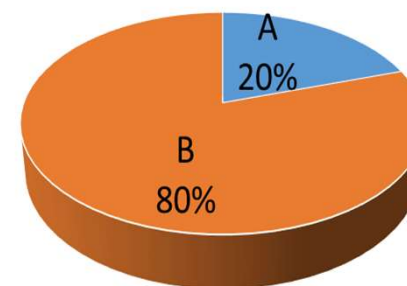
教育・研修内容の充実



農大情報の発信



教育・実習施設等の計画的な整備の推進



## 外部評価委員による評価の結果②

### 【意見・提案等】

#### 《授業の進め方について》

- 学生の習熟度を把握して、個別指導の充実を図っている。
- 授業改善については、農業高校等と連携を図り、研究授業等の実施が有効である。
- 職員が学生に指導するにあたり、資格取得を図っていることで、学生と同じ目線で指導ができています。
- 安全第一での生徒たちに熱心な指導が行われ、事故、怪我等無く楽しめる単位取得ができています。
- 教育力向上研修や資格取得が積極的に行われている。

#### 《学生への指導について》

- 授業の理解度が低い学生に対して、個別のフォローアップをしている。
- ICTを活用した基礎学力向上の取り組み等が有効である。
- 学生それぞれの基礎学力が違い対応が難しいことが、理解出来た。
- 授業で足りない分、補修テストなどで対応しているところが良い。
- 基礎学力については、個人差がかなりありそうで、一律の対応は難しいため、放課後に学生自ら同好会などを組織し、補習する取り組みなどを行うてはどうか。

#### 《自己評価結果について》

- 職員の振り返りによって、指導者が指導の充実・改善を図っている。
- 各指導者から学生への授業評価を定期的に行うことによって、授業の改善を図ることが有効である。
- 予算、時間が限られている中、積極的に生徒指導、学習環境整備に取り組んでいる。

#### 《教育・研修の内容について》

- 外部との連携による教育内容の充実を図っている。
- 現在も指導が行われているが、学生に栽培からマーケティング、消費者の皆様の喜ぶ笑顔が実感できる教育を進めてほしい。

#### 《情報発信について》

- HPやSNSの情報発信を積極的に行っている。
- 農業大学の情報発信はまだ足りない。SNSなどフルに利用して若い心をつかむ努力をしなければいけない。たとえば、農業大学校インスタ部などを立ち上げ、学生と職員が毎日の寮の食事メニュー、乳牛の搾り作業、肉牛の給餌の風景、分娩の情報、人工授精の風景、播種作業、自慢のトラクター、ライガーなどの農作業機の紹介など、農大のなかにいれば当たり前の事でも外部から見ると全くわからない世界であるため、それをどう魅力的に発信できるかが鍵だと思う。

#### 《学校施設について》

- 計画的に施設・設備の充実を図っている。
- 学生寮の整備計画の説明を受け、学生のプライバシー保護の観点からも早期の個室化の整備が必要と感じた。
- 施設や機械が新しければ良いというものでもないし、常に最先端のものを取り入れなくても良い。
- トラクター作業機など整備が必要なもの、更新が必要なものをしっかり見極めて、いつでも使える状態にしておく。序列をつけて計画的に配備、整備することが必要。

#### 《その他》

- 従前の生徒募集の在り方では定員を充足させることは困難になってきているため、将来の担い手育成を含めた取り組みが必要。
- 入校する学生が非農家・道外・女性など多様になってきている中で、学生の質も変化しており、施設や機械の老朽化など、様々な課題を抱えていると思う。
- 昨年の農福連携の視察の際、非農家で新規就農を目指す学生が興味を持ってくれた。
- 1年生の1ヶ月研修の指導農家にも、学生の質が変化していることを伝え、受け入れてもらった方が良い。